

医療系三学部合同教育がスタート

F R O N T I E R

教育・研究の最前線

医学部 医学教育統轄センター専任講師 もんかわ としあき 門川 俊明



後期教育グループワークの様子

慶應義塾大学には、医学部に
加え、2001年に看護医療学
部、2008年に薬学部が開設
され、3つの医療系学部がそろ
いました。

近年の医療では、専門分化が
進む一方で、専門職同士のコミ
ュニケーション、患者さんの中
心としたチーム医療の重要性が
増しています。それを受けて、
医療系学部の合同カリキュラム
を取り入れる大学が増えてきま
した。義塾においても、201
1（平成23）年度より、医療系
三学部合同教育「グループア

プローチによる患者中心の医療実
践教育プログラム」(KID: Keio
Interprofessional Development
Program for Patient-Centered
Medicine)がスタートしました。

初年度となる今年度は【後期
教育】と【初期教育】の2つの
プログラムが実施されました。

【後期教育】は、医学部6年生、
看護医療学部4年生、薬学部6
年生（いずれも最終学年の学生）
を対象として、5月6日（金）

に信濃町キャンパスで行われま
した。グループワークのテーマ
は「腎不全患者の腎代替療法の
選択」。グループワークでは、和
気あいあいとした雰囲気の中に
も、患者さんの抱える問題の理
解、医療・ケアのプランの立案
について、最終学年らしい白熱
した議論が行われ、三学部学生
の交流という目的も果たせまし
た。

【初期教育】は、三学部の1年
生を対象としたプログラムです。

6月11日（土）に全員が日吉キ
ャンパスに集まって第1回が行
われ、9月17日（土）の第2回で
は、医看薬の混合グループが、
信濃町、湘南藤沢、芝共立の3
つのキャンパスに分かれて、キ
ャンパスツアーとグループワー
クが行われました。医療系三学
部が交流を持ち、グループ学習
などを通じて互いの学部の共通
性と相違性を理解し、共同作業
の大切さを学びました。

このカリキュラムを通して、
医療系三学部の学生が、学生の
うちから大いに交流を深め、将
来、患者さん中心のグループア
プローチによる医療が実践でき
る医療人に成長していくことが
期待されます。義塾の医療系三
学部は信濃町、湘南藤沢、芝共
立とキャンパスが互いに離れて
いるというハンディキャップが
ありますが、それを乗り越え、
充実したプログラムにしていき
たいと考えています。